
節周辺部の構造、素性の普遍性と個別性

佐藤 裕美／辻子美保子／片岡喜代子／加藤 宏紀／相原 昌彦

テンス、アスペクト、モダリティ、文タイプなどに関わる節周辺部の構造、それぞれに関わる機能範疇の語彙的特性や言語間、同一言語内における多様性のパターンについて、英語、日本語、中国語、スペイン語、イタリア語などに観察される現象を考察し、節構造と関わる普遍的性質、個別言語的特徴について説明することを目的とし、研究会での成果を、片岡喜代子、加藤宏紀（編）神奈川大学言語学研究叢書6『言語の意味論的二元性と統辞論』（ひつじ書房）として出版することができた。本書では統辞論から語用論へのインターフェイスに関わる節周辺部が個別言語の多様性を最も顕著に表し、個々の言語に可能な構造における変異や語彙的相違など、相違の範囲の可能性をも説明するものであると考え、述語一項関係に基づく文の論理的意味を与えてくれる構造であ

るvP相のみならず、vP相以降の節周辺部で構造化する文タイプを決定するなどの機能をもつ要素にも着目し、それらに関わる現象について議論した。

成果一覧（論文・口頭発表等）

辻子美保子「格付値と格素性の役割」

片岡喜代子「否定関連現象から見た言語間変異—否定作用域と否定述部」

加藤 宏紀「“ZHE”の意味と統語的位置—SC理論の観点から」

佐藤 裕美「英語不定詞のテンス、アスペクトと構造」

相原 昌彦「日本語否定疑問文からみる疑問文の統語構造と意味」